教育研修 No.151（令和７年１１月４日）

おもな内容　ページ

随想 …… 1
研修講座寸評 …… 2～4
出前講座寸評 …… 5～6
教育講演会 …… 7～8
心に残る授業その 92 …… 9
ICT 実技研修講座紹介 …… 9
研究室だより …… 10
お知らせ …… 11

旭川市立旭川中学校　紹介

本校では「地域とのつながり」を大切にして学習をすすめています。９月に行われた旭中フェスでは、「東旭川の魅力をもっと深く知ろう！東旭川を盛り上げよう」というテーマのもと、１年生は“魅力を伝える写真甲子園”の実施、２年生は“地域紹介動画”の制作、３年生は１・２年生時の学びをもとに、東旭川の魅力を“ステージ発表”で表現しました。活動を通してたくさんの地域の方々からお話を聞き、自分たちの住む東旭川の魅力を新たに発見することができました。

随想

「Ｓからの指導」

上川教育研修センター
副所長　貞　弘　真　悟

２年程前に『ＶＩＶＡＮＴ』というテレビドラマが放送されました。堺雅人さん主演で、タイトルが新語・流行語大賞にもノミネートされたヒット作です。その作品には、初回からＦという主人公の二重人格と思しき人物が登場しています。第１話では、砂漠にとり残された主人公がＦから叱咤激励され、生き延びる方法をアドバイスされていました。その人物が作品の中でどのような意味をもつのかは全くわかりませんでしたが、私は妙に共感するところがありました。

私は若い時から、物事を選択する時や意見をまとめる時に、「この人だったらどちらを選択するだろう？この人だったらどう思うだろう？」と自分の中に他人の思考傾向を取り入れて物事を考えてきたように思います。自分の置かれている状況を第三者の目で振り返る、よく言えば他の人の立場を考える、自分よがりにならないように配慮するということになるでしょうか。とにかく、Ｆのように「それでいいのか？」と問いかける自分がいたような気がします（その実体は残念ながら見たことはありません）。しかし、そこに不可欠だったのが、思考傾向を取り入れたいと思う第三者の存在です。

確か、大学生時代の教育心理学の講義（だったと思いますが）で、「メタ認知能力」という言葉を聞き、自分の思考はこれに当てはまるのではないかと考えました。この発見以来、この言葉は、自分の人生における流行語大賞となりました。この「メタ認知能力」というものは、道標であると同時に、己をへこます諸刃の刃となりました。時には思考を深め時には反省を促しました。

そんな自分の体験を通して、校長時代は子どもたちにも「自分を振り返ること」を求めました。

・他の立場を理解し場に応じた言動を！
・自己を省みよりよく生きよう！

昨今、社会的な問題となっており、管内の多くの学校が課題としていることに『不登校』があります。自分は皆の役に立っており自分の存在意義を認識する【自己有用感】を育成することが、自分を振り返り自分を受け入れる【自己肯定感】を高めていくことにつながり、自分はここにいて良いんだという【安心感】をもつ。この素晴らしきサイクルを確立したいと考えました。

そんな大きなことを考えていると、「子どもたちにとって、お前は思考傾向を取り入れたい存在に少しでもなっていたのか？」と、自分の中のＳが私を高い所から見つめてきます…。因みにＳとは貞弘のＳです。

士別市立士別南小学校　紹介

士別市は「合宿の里」です。毎年、多くの団体がスポーツを中心とした合宿を行っています。本校で行った、陸上教室に「日本郵政グループ女子陸上部」の皆さまをお招きしました。トップアスリートの方々から、体の動かし方や練習に臨む姿勢について直接指導していただき、貴重な学びの機会となりました。今後も「ふるさとキャリア教育」の充実を図るとともに、地域とつながる学びを大切にしていきます。

センター日誌

7/22　研究室夏季集中研・研究協力校打合せ
7/28　教育講演会
8/28,29 道研連研究発表大会（胆振大会）
9/9　研究協力校　研究授業（旭川市立東栄小学校）
10/16　研究協力校　研究授業（旭川市立神居東中学校）
11/4　センターだより第 151 号発行
※毎週火曜日定例研究室会議
※随時研修講座講師打合せ会議

研修講座寸描 1

1　学校経営Ⅰ　6/3（火）

講師
三浦　一路（上川教育局　義務教育指導監）
袰田佳奈恵（当麻中　　校長）
浅野　智子（豊岡小　　校長）
千葉　雅樹（緑が丘中　校長）
佐藤　正和（多寄小　　校長）

「令和の日本型学校教育の実現に向けた学校経営の在り方」

受講者の声
・「変わるきっかけをつくるのが校長」「持続可能な学校をつくることが大事」等の言葉がとても心に響きました。まさに「持続可能な学校づくり」が今の私の学校づくりの視点でしたので勉強になりました。
・子供のウェルビーイングの実現に向けて、様々な角度からのエビデンスをもとに、学校経営を見つめ直すことが大切だと思いました。

3　学級経営と教育相談　6/13(金)

講師
田中　直也（北海道立教育研究所
人材育成部　研究研修主事）
小野　慎二（北海道立教育研究所
人材育成部　研究研修主事）

「『生徒指導提要』の改訂をふまえた、これからの生徒指導の方向性」

受講者の声
・とても勉強になりました。さっそく帰って試したり、もっと勉強するべきことがあるとわかったりしてよかったです。
・担任しているクラスの学級経営、トラブルに対応する生徒指導で大切なことを教えていただきました。
・生徒指導提要を読むことで、問題行動等だけでなく、目の前にいる全ての子供たちの成長や発達を支えるヒントがあることを知りました。

5　読書活動　6/26（木）

講師
福澤　　秀（旭川市教育委員会
いじめ対策コーディネーター）
上野　健太（東光中　　教諭）

「児童生徒に本を読む楽しさを実感させる指導の在り方」

受講者の声
・他校の図書館の様子や、小学校と中学校での図書館利用の現状を聞けたり、実際の授業を見学できたりして充実した研修でした。
・新聞を使った取組がとても参考になりました。3 年生の授業を通して勉強させていただき、実践での利用も見ることができて勉強になりました。
・学校図書館の活用の課題は小学校でも変わりなく、必要な情報にたどり着くための準備や教諭との打ち合わせが課題であると感じました。

6　幼保小連携教育　7/24（木）

講師
川邊　宏司（上川教育局　指導主事）
佐々木　玲（北海道教育大学附属
旭川幼稚園　副園長）

「幼児教育と小学校教育の円滑な接続を目指す幼保小連携教育の在り方」

受講者の声
・普段交流の少ない幼稚園・保育園・小学校の先生方が直接対話し、意見交換できたことが貴重な経験となりました。
・「架け橋プログラム」や「アプローチカリキュラム」の重要性を再認識し、具体的な連携のアイデアを多数得ることができました。
・子どもを見守る上で何を大切にするか、今後も共通理解を図る必要があると感じました。
・先生同士が顔を合わせて話すことで、幼保小連携への心理的なハードルが下がりました。

研修講座寸描 2

7　道徳科指導　7/25(金)　9/3(水)

講師
山下　真悟（上川教育局　指導主事）
伊藤　悟士（陵雲小　教諭）
大城　利之（愛宕中　教諭）

「児童生徒が主体的に考え、議論する道徳科指導の在り方」

受講者の声

・今まで自分がしていたことを振り返るよい機会になりました。今日の研修を受けて、生徒がもっと自分事として考えられるような授業を作りたいと思うことができました。
・道徳の授業づくりで、大切なことを教えていただきました。特に学習指導の展開において、価値の理解、自己を見つめる、多面的・多角的に考える、生き方を考えるという点を確認することが出来て、勉強になりました。

8　教育講演会　7/28(月)

講師
中澤　美明（北海道教育大学
教職大学院　特任教授）

「令和の日本型学校教育を担う新たな教師の学び」

受講者の声

・対話、メタ認知、子供たちにだけ求めるのではなく、我々こそ実践すべきだと改めて実感しました。本校研修でも、子どもと教師の学びの形は相似形だということで、個別最適な研修に取り組んでいます。これからも学び続けるために示唆に富んだご講演をありがとうございました。
・これからの教師の学びについて考えることができました。特に、価値観を転換したり捨てたりする勇気が必要と痛感していたので、まさに、「アンラーン」の考えを教訓にして今後の自己を見直すきっかけとなる講演でした。

10　国語科指導　7/30(水)　9/9(火)

講師
棚瀬　泰宏（旭川市教育委員会　主査）
日下　裕太（青雲小　教諭）
岩城　卓也（明星中　教諭）

「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育てる授業の在り方」

受講者の声

・言語活動の在り方について。今までの自分の実践を振り返ると、言語活動が目的化してしまっていたと反省しました。言語活動をいかに設定するかが、子供たちの主体性、学習の姿勢に反映されると実感しました。指導計画の作成も、思っていた何倍も苦戦しました。それほど考えることが、とても大事だなと改めて感じました。
・講義や実践交流を通して、教師自身の学びの質が子供に直結することを実感しました。忙しさの中でも学び合い、問い直す文化を大切にしていきたいと改めて思いました。

13　学校事務実務　8/4（月）

講師
福田　実咲（公立学校共済組合北海道支部　短期給付係主事）
鈴木　優菜（公立学校共済組合北海道支部　経理出納係主事）
米田章太郎（名寄南小　事務職員）
林　佑亮（仁宇布小中　事務職員）
戸田　千紘（富良野小　事務職員）
大郷　桃佳（春光台中　事務職員）
小海　紘尚（神楽小　事務職員）
今村　凌太（高台小　事務職員）

「学校事務における今日的課題」

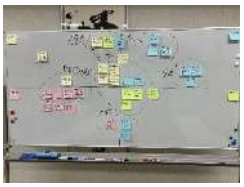
受講者の声

・新設された手当金など、資料を用いて説明していただいたことでこれから育児休業をとる教職員に制度を説明しやすくなりました。
・他の学校の実践などを聞いて、大変参考になりました。学校では、1人で考えることが多いので、解決策が見えたような気がします
・学校の防犯防災対策について様々な考えを知ることができて大変勉強になりました。火災だけでなく、水害や噴火など幅広い想定や、訓練の役割の交代や行う時期も考える必要があると思いました。

研修講座寸描 3

15　令和の日本型学校教育　8/22(金)

講師　高野　拓実（北海道教育大学教員養成イノベーション機構 学校臨床教授）



「新たな教師の学びに向けた校内研修の在り方（研修観の転換）」

受講者の声

・令和の日本型学校教育を進める上で、研修観を転換することで、より効果的な研修にできることを学びました。
・協議の際に、グループごとにまとめた観点が大きく異なっていたことは、研修の在り方や実態について深く考えるきっかけとなり、自校での実践への興味につながりました。
・教師が自ら学び続けるためには、子供と同じように「やってみたい」「身に付けたい」という意欲や熱量が重要であると再認識しました。

16　学校保健　9/2(火)

講師　池田　　暁（旭川市教育委員会　主査）
石津　友貴（中央中　養護教諭）

「児童生徒の心身の健康を育む学校保健の充実」

受講者の声

・養護教諭として必要な知識、心がけを改めて学び、多忙な日々の中で忘れかけていた保健室経営のあり方や自身のなりたい養護教諭像を再考する機会となりました。
・一人職である養護教諭にとって、他の学校の先生方と日常の様子や悩みを共有できる時間は非常に貴重だと強く感じました。
・アイスパックの使用法や中学校特有の生徒との関わりなど、自身の学校や校種に応じた実践との違いを比較し、深く学ぶことができました。

17　学校と地域の連携・協働　9/4(木)

講師　田阪　直也（上川教育局　主査）
小島　紀行（旭川市教育委員会　主幹）
十河　俊輔（上川教育局　社会教育主事）
本庄奈津美（旭川小　教諭）
村越　恵一（光陽中　教諭）

「社会に開かれた教育課程の実現とコミュニティ・スクールの在り方」

受講者の声

・地域コーディネーターが地域連携の窓口を担うことで、学校と地域の取組がさらに充実する事例に触れることができ、その効果を学びました。
・他地域の実践や課題について多くの情報交流ができ、自校では取り組んでいない活動を知ることができ、大変参考になりました。
・活動の記録をしっかり残すことが、連携をスムーズにし、取組を継続・発展させていく上で極めて重要であると再確認できました。

18　ICT と情報モラル　9/8（月）

講師　佐々木　玲（北海道教育大学附属旭川幼稚園　副園長）
廣野　裕介（春光台中　教諭）

「情報モラルを身につけ、ICT を適切に使用させるための指導と評価の在り方」

受講者の声

・情報モラルの指導の重要性が増していることを再認識し、単に知識として教えるのではなく、子どもたちの日常生活と関連付けながら指導することの重要性を学びました。
・研修を通して、Canva、NotebookLM、オクリンク、Goodnotes、FigJam といった今まで知らなかった ICT ツールに触れることができ、大変有益でした。特に、Canva の具体的な使い方を学んだことや、ICT 活用の様々な事例について情報交換できたことは、大きな収穫となりました。

COURSE DETAILS

出前講座 寸描

出前講座（６月９日～７月２日）

東神楽中学校「特別支援教育」
6月９日（月）

「特別支援教育」について、障がいのある生徒とない生徒に関わらず共同学習をしていくことの大切さを改めて確認できました。講義の後の質疑応答の中で、多くの課題があり、難しい現状を知ることができました。今後、生徒や保護者と関わる際に生かしていきたいと思います。

愛別中学校「教科等指導」
6月10日（火）

「指導と評価の一体化」について学びを深められました。 教師が授業のゴールを意識し、生徒が目的をもった活動をすることと、指導と評価の一体化した評価方法について、改善を図っていきたいと思います。

上教研北部数学班「教科等指導」
6月11日（水）

「個別最適な学びと協働的な学び」について、グループで日々の実践や悩みを話し合うことで学びが深まりました。また、実践例を通して紹介いただいた多様な指導法は今後の授業改善に生かしたいと思います。

上教研中部数学班「教科等指導」
6月11日（水）

上教研中部地区研究大会に向けて、「単元の指導計画」をテーマにお話をいただきました。小学校算数第2学年「三角形と四角形」を例に、単元の指導計画作成の手順とポイントを示していただき、今後の指導案作成に向けてとても参考になりました。

近文第２小学校「ＩＣＴの活用」
6月23日（月）

「児童のつなぐ力向上（実技研）ブラウザを使ったアプリの実際について」をテーマに、オクリンクプラスの新機能やPadletなど意見交流できるアプリを教えていただきました。すぐに活用できるものばかりで、とてもありがたいです。

富良野市立東小学校「ＩＣＴの活用」
7月2日（水）

基本的なＩＣＴの活用や、緑新小学校のリーディングＤＸについて、様々な実践を教えていただきました。授業の中でのスプレッドシートの活用など本校でもできそうな内容を積極的に取り入れていきたいと思います。

COURSE DETAILS

出前講座 寸描

出前講座（７月９日～８月２１日）

東神楽中学校「ＩＣＴの活用」
7月9日（水）

具体的な例を元にお話しいただき大変勉強になりました。ICT機器を授業で使い、「＋αの価値」を意識した授業づくりをしていきたいと思いました。Canvaの使い方もわかりやすく例示していただきありがとうございました。

中川町立中央小学校「特別支援教育」
7月22日（火）

今回の研修では、学級における児童理解のための視点を深めることができました。児童それぞれの状態によってどのような支援が必要なのか、環境を整えてあげればいいのかを具体的に考えることができました。

豊岡小学校「各種実技指導」
7月24日（木）

日頃から感じていた絵画指導における疑問や、昨今の図工美術科の考え方を知ることができました。実技研修では、楽しみながら体験することができ、事前の準備が子供たちのやる気を引き出すことにつながるということを再確認させていただきました。

占冠村教育研究会「ＩＣＴの活用」
7月25日（金）

講義の中での演習を通して、クラウド活用の良さを体験的に理解することができました。また、目的に応じて思考ツールを使うことで、子供の思いや考えが目に見えやすく、指導と評価の一体化にも繋がることが分かりました。

南富良野町教育研究会「生徒指導」
7月29日（火）

普段、意識せず児童の前に立っていましたが、講師の先生の問いかけとグループワークでの交流を通して、改めて学級経営や児童理解、そして職員同士の連携の大切さについて認識を深めることができました。

美瑛中学校「教科等指導」
8月21日（木）

学校教育現場における生成AIのあり方や認識について示していただきました。特にGeminiのプロンプト実践では、実際の場面を想定して学ぶことができました。今後の授業改善、業務効率化に生かしたいと思います。

上川教育研修センター教育講演会

「令和の日本型学校教育を担う新たな教師の学び」

講師：中　澤　美　明　氏
北海道教育大学教職大学院　特任教授
独立行政法人教職員支援機構（NITS）フェロー

はじめに

今日は、「教師の学びに関する動向」と「これからの教師の学びの在り方」についてお話します。

これまで研修は、「新しい知識を教えてもらう」「多くの資料をもらって帰る」とイメージされる傾向にありましたが、本日は、知識よりも主に「考え方」や「姿勢」について考える内容です。実践に直結する知識やスキルの学びも必要ですが、漢方薬のようにじわじわ効いて、徐々に自分の考え方や姿勢が変わっていくような学びも重要と考えています。

1　教師の学びに関する動向

○　研修（教師の学び）の基本

教育基本法や教育公務員特例法にもあるように、教師は「絶えず学び続ける」立場です。育児や介護などで学びのペースが落ちることはあっても、学び自体をやめることはできないのです。また、教師は子供のロールモデルです。自ら学び続ける姿勢が、子供たちの主体的な学びにもつながります。

教職員研修には学習指導要領のような標準的な基準はなく、制度的に細かく縛られているものでなく、自由度が高いのでもっと柔軟に、創造的に研修を企画したり、学びを進めたりしてもよいのではないかと考えています。

○　新たな教師の学びの姿

令和 3 年答申「令和の学校教育の構築を目指して」を踏まえ、令和 4 年答申では、子供たちの学び（授業観・学習観）とともに教師自身の学び（研修観）を転換する必要性が述べられ、「新たな教師の学びの姿」（主体的な姿勢 、継続的な学び、個別最適な学び、協働的な学び）が示されました。

これは、教師と子供の学びは「相似形」にあることを意味します。子供の学びを変えるためには、これらの姿を基に教師自身の学びも変わらなければならないのです。

○　新しい仕組みと取り組み

この学びの姿の実現のために、国や教育委員会では、研修を支える仕組みが整えられました。例えば、研修履歴の記録と校長との対話、教職員支援機構や「Plant」による動画の提供などにより、先生方が個々の課題意識やペース、時間などに応じて進んで学ぶことができる環境が整備されました。また、研修センターなどでは、課題に基づいて協議を深める課題解決型、あるいは探究型の研修を取り入れられています。校内研修においても、クラウドを活用して、効率的・効果的に情報共有や共同作業を行うなど、先生方が研修に参加しやすい環境づくりに努められています。

2　これからの研修の在り方

「新しい教師の学びの姿」（主体的な姿勢 、継続的な学び、個別最適な学び、協働的な学び）の実現に向けて、皆様方は様々な取り組みを進められていらっしゃいますが、研修センターや学校、先生方の現状を踏まえると、「協働的に学ぶ」ことを一層推進していただきたいと考えています。その際に重要になるのが「対話」です。

○　対話のグランドルール

対話とは、議論、討論のように結論や方向性を見出すことや自身の主張を通すことに主眼を置くものではなく、お互いの主張を傾聴し合うことにより相互学習の機会が生まれ、自分の主張が変わることを前提に行います。その際のグランドルールは次の通りです。

・全員が発言できるようにする
・まずは「聞く」。聞き合い、相手の考えや思いを理解する
・互いをリスペクトしながら対等な立ち位置を保つ
・正解（模範）を探さない、否定しない、価値判断の保留する
・自分と相手の違いを楽しむ
・自身の思考特徴（偏り、こだわりなど）を考える

先生方は、それぞれの考えや実践を持ち寄り、対話のグランドルールを基に交流し、相手を理解しながら、相手または自身に問い返したり、問い直したり、新たに生まれた気付きや問いを追究したりするなどして学び合うことが重要です。

○　自身の思考傾向や価値観に気付く

こうした対話を通して、明日の実践に直結する知識やスキルなどを理解することができます。今後はこれに加えて、自身の「思考の偏り」や「価値観」に気づくことが大切です。つまり、自身を「メタ認知」することです。

その理由の一つは、時代の変化に対応するためです。

これからの予測困難な時代では、様々な課題に対応するためにこれまでの考え方にこだわらず、新しい思考や行動の枠組みを取り込むことが一層必要になってきます。時には、これまで大切にしてきた価値観を転換したり、捨てたり（アンラーン）しなければならないこともあります。しかし、成功経験などから形成された思考特徴や価値観が、転換やアンラーンを邪魔することもあります。

したがって、これからの教師には、時代の変化に適切に対応するため、自身の思考の偏りやこだわりなどの思考特徴、価値観を客観的に見つめ、自覚しておくことが重要なのです。

二つ目は、適切に判断するためです。

管理職の先生をはじめ、先生方は、軽重、数の違いはあれ、経営、授業、指導、計画など様々な場面で判断をしています。より適切な判断を行うためには、影響を与える自身の考え方の偏りやこだわり、バイアスなどの思考特徴、価値観を自覚していることが重要です。この自覚が、周囲に意見を求めたり、異なる意見を取り入れたりしながら、広い視野でバランスに配慮するなど、適切な判断と行動につながると考えています。

3　まとめ

これから皆様は、教育の動向を捉えて専門性を高める観点から、個別最適に ICT を活用したり、対話的に学んだりしながら知識やスキルを増やしていただきたいと思っています。同時に、対話による他者とのかかわりを通して、視座を高め視野を広めるとともに、自身をメタ認知し、自身の思考傾向や価値観に気付き自覚しながら、時にはアンラーンしながら新たな価値を創造していただくことを願っています。こうした姿勢が、これからの教育実践の質を高めることにつながると考えています。

そのためにも、お忙しい中ではありますが、時には、本日のような自校以外の皆様と対話を通して学び合う機会に参加されたり、対話するコミュニティをつくられたりして、自身の固定された思考回路から飛び出してみてはいかがでしょうか。

心に残る授業　その 92

上川教育局学校教育指導班
主任指導主事
小　寺　寿　臣

教室に多様な子どもたちがいる中、誰一人取り残さず全ての子どもたちに資質・能力を育成するためには、障がいによる学びにくさや生活のしにくさを、本人の立場になって捉え、一人一人へ個に応じた支援をするという特別支援教育の視点を、学級経営や授業づくりに生かしながら、子どもの学びを支えることが大切です。本稿においては、一人一人の学びにくさや生活のしにくさに応じて指導を行う、通級による指導の授業について紹介したいと思います。

私が参観したのは、あらたまった場所や人前に立つと、緊張が高まって、自分の気持ちや考えを言語化することが難しい子どもに対する、「人と関わることへの抵抗感を軽減する」、「話の内容を正しく理解する」ことをねらいとした授業でした。

そのねらいを達成するための学習活動として、教師との関わりを基礎として、カードゲームや、教師が話した内容をメモするという活動が設定されていました。

一見すると、単にカードゲームで遊んでいたり、話をメモしていたりするだけのように感じます。しかし、そこには、子どもの気持ちを引き出すためにタイミングを調整して言葉を掛けたり、子どもが学習を円滑に進めることができるように配慮したりするなど、子どもの実態を的確に捉え、学びにくさや生活のしにくさの改善・克服に繋がる教師の意図がありました。

本授業をとおして、子ども一人一人の障がいによる学びにくさや生活のしにくさについて適切に実態を把握し、個に応じた支援の充実を図ることの大切さについて改めて実感することができました。

また、教室には多様な特性をもった子どもたちが日々学んでいます。子ども一人一人の興味や関心、学習特性を踏まえた、一人一人の学びの実現を目指す授業づくりの重要性についても再認識する機会となり、心に残る授業となりました。

ICT 実技研修講座レポート

近年、生成ＡＩをはじめとした先進的なＩＣＴ技術の進展により、教育現場におけるＩＣＴの活用はこれまで以上に多様化・高度化しています。オンラインと対面を効果的に組み合わせたハイブリッド型授業の実践、クラウドを活用した共同学習や校務の効率化、生徒一人一人に応じた個別最適な学びの実現など、ＩＣＴは教育活動全体を支える重要なツールとなっています。

こうした背景を踏まえ、当センターでは、教職員のＩＣＴ活用力の向上を目的とし、授業・校務に直結する実践的なスキルを習得できるＩＣＴ実技研修講座を開講しています。令和７年度は、全７講座（各講座２回ずつ、計 14 回。すべて半日実施）を実施しています。

プログラミング教育講座

小・中学校におけるプログラミング的思考の育成をテーマに、理論と実践の両面から学びました。Viscuit、Scratch、micro:bit などのツールの操作方法に加え、教科横断的な活用例や、AI との連携を意識した授業設計にも触れました。

タブレット PC 講座

「入門編」「授業活用編」「校務活用編」の３つを開設しました。

- **入門編**: 基本操作や教育アプリの活用
- **授業活用編**: 生成 AI ツールや協働学習アプリを活用した複線型授業の設計
- **校務活用編**: クラウドツールを活用した校務改善、ポータルサイトや共有ドライブの効果的な使い方。

BYOD 環境や１人１台端末時代を見据え、より現場に即した内容としています。

エクセル講座

「初級編」「中級編」「クラウド活用編」の３つを開設しました。

- **初級編**: 基本的な表計算や四則演算、簡単な関数の活用方法
- **中級編**: COUNTIF や VLOOKUP、IF 関数など日常の校務や成績処理に役立つ内容
- **クラウド活用編**: Google フォームを用いたアンケート作成や、収集したデータの Google スプレッドシートおよび Excel での集計・分析方法

これに加え、AI による自動集計やグラフ生成の初歩も取り入れ、より効率的なデータ処理を目指しました。

今後も、ＩＣＴは教育の質の向上と働き方改革の両面において重要な役割を果たすと考えられます。当センターでは、引き続き実践的で現場のニーズに即した研修を提供してまいります。

なお、ＩＣＴ実技研修講座とは別に、当センターでは出前講座でも「ＩＣＴの活用」をテーマにした研修を実施しています。多くの皆様の御参加をお待ちしております。

「求められる資質・能力を育む学習指導の在り方」

～子供を主語にした主体的・対話的で深い学びの実現を目指して～

【センター発表会Ⅰの紹介と振り返り】　第６学年社会科「縄文のむらからくにへ」　授業者：林　裕生（神楽岡小）

時数	○教師の手立て ・「発問」
1	【課題設定のプロセス】 ○想像図や出土品などの資料から縄文時代と弥生時代の違いについて考えられるようにする。 ・「縄文時代と弥生時代では、どのような違いがありますか。」 〈キーワード〉狩猟・採集　米づくり ○縄文～弥生時代の学習を振り返り、歴史学習の学び方について理解できるようにする。
2	【課題設定】 ○米づくりが広まったことによる影響を考え、時代の変化について予想できるようにする。 【課題（学習問題）】米づくりが広まったことによって、社会はどのように変化したのだろうか。 【見通し】 ○調べる資料について話し合ったことをもとに個人で視点を決定し、調べ学習の見通しをもつ。 〈予想されるテーマ〉物　建物　人々 ○個人で調べ学習を行った後、同じ視点でグループを作って交流し、最終的には視点同士で交流することで、学習問題をまとめられるようにする。
3 4 5	【課題追求】〈情報収集〉 ○調べ学習は主に以下の３つの視点で行うようにする。 ①資料の説明　②資料から分かる時代の特徴 ③時代の変化 ○個人で調べた事柄を持ち寄ってグループを作成し、交流を通して資料から分かる時代の変化について考えられるようにする。 【課題追求】〈整理・分析〉 ○グループで交流したことをまとめ、他のグループに向けて発表できるようにする。
6	【単元のまとめに向かうプロセス】〈学び合い〉 ○各グループの発表の内容を板書にまとめ、それをもとに学習問題のまとめを考えられるようにする。 ・「米づくりが広がったことにより、どのような変化が起こり、社会はどうなったでしょうか。」
7	【単元のまとめ】（記述例） 米づくりが広まったことによって、人々の生活は安定し指導者は豪族や王と呼ばれるようになった。大きくなったむらはくにと呼ばれるようになり、古墳時代の終わりには、大和朝廷が多くのくにを従えるようになった。 【単元の振り返り】（記述例） 古墳時代の人々の様子について、争いによって大きく変化したことが分かった。人や場所、物に注目したり、友達と協力して調べたりしたことで、一人で学習するよりもより深く知ることができた。

縄文時代と弥生時代の比較を通して、児童が「昔の人々の暮らしを知るためには、想像図や出土品などの道具に着目するとよい」という歴史の学び方に気付く１時間目を設定し、学び方の見通しをもたせることができました。

学習問題に対する予想を確かめるためには何を調べたらよいかを話し合うことで、自分の予想を確かめたり、より興味のあるテーマについて調べようとしたりするなど、意欲的に取り組む姿が見られました。また、調べる資料をはっきりさせることで、次時以降の見通しをより明確にもたせることができました。

選択したテーマについて個人で学習を進める時間（第３時）と、テーマごとのグループで活動する時間（第４時）を設定しました。個人では調べきれなかった部分を友達と交流することで補完する姿が見られました。

本時では、学習問題の解決に向けて、それぞれのテーマについての交流と、時代の変化について考える活動を設定しました。テーマごとに得た情報を関連付けることで、縄文時代から大和朝廷までの時代の変化に気付けるようにすることをねらいました。そのためには、児童が学んだことをしっかりと伝え合える交流の時間を確保することや、児童の思考を促す発問の吟味が必要だと感じました。

本時では、調べ学習の結果を板書にまとめる形で、児童の思考の収束をねらいました。時代の流れや変化について視覚化することはできたものの、学習問題について考える有効な手立てとするためには、板書の内容を精選することが重要だと感じました。

6月17日（火）
センター研究発表会Ⅰ

研究員の林　裕生教諭の公開授業が旭川市立神楽岡小学校で行われました

12月2日（火）
センター研究発表会Ⅱ
附属旭川中学校で実施されます

上川教育研修センター　受講後調査のお願い

当研修センターでは、研修成果を推し測り、次年度の事業計画策定の参考とするため、一定期間をおいてアンケート調査（受講後調査）をお願いしています。趣旨を御理解の上、御協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

受講後2カ月を目途に、申込時に入力したメールアドレスに依頼メールが送信されます。そのメールに記載されているアドレスもしくは、2次元コードから御回答ください。（下記と同じものです。）

※当研修センターWebサイト上でも可能です。

https://forms.gle/GhcMmE8cyLrhfFjT6

各種資料の御活用を！

当研修センターの１階には、各種教育雑誌を、３階には、道内はもちろん全国各地の教育関係広報紙や研究紀要、教育雑誌のバックナンバーなどを保管しています。所蔵資料リストは研修センターWebサイトから御覧いただけます。気になる資料がありましたら、研修センターまで御連絡ください。

発行日　令和7年１１月4日

発　行　〒０７０－００３６
旭川市6条通4丁目
上川教育研修センター

責任者　石　前　聖　香

０１６６－２４－２５０１
０１６６－２４－２５１２
kami-cen@potato.ne.jp
http:/kami-cen.hs.plala.or.jp/
@kamicen2025